

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立野村高等学校
学校番号(39)

評価実施日		令和5年2月24日(金)	
委員	氏名		備考
	井上 恵一	野村石油(株)代表取締役	
	佐藤 茂輝	西予市教育委員会野村教育課長	
	徳村 学	西予自然牧場	
	山岡 三枝	西予市野城総合福祉協会事務局長	
	吉川 多賀子	まごころ銀行運営委委員	
	大森 寿和	西予市野村支所長	
	岡部 一行	城川中学校教頭	
	酒井 康次	西予市野村支所産業建設課長	
	谷本 英樹	有限会社タニヤ代表取締役	
水口 雅彦	野村中学校教頭		
評価・提言等		提言等に対する改善方策等	
今年度の最終評価について			
(1) PTA活動 ・コロナ禍の活動制限下での高校祭で新たなPTA研修を位置付けたのは評価できる。「緑ヶ丘通信」に特化した記事を掲載するなどすれば、活動がより活性化するのではないかと。 ・保護者同士の親睦を深めながら、生徒も含めて学校と連携していくことが大事ではないかと。		・高校祭でのPTA研修会の参加人数が増えるよう、今年度とは違った宣伝や企画を考えていきたい。生徒も参加できるものではないかと検討したい。 ・毎月発行する「緑ヶ丘通信」や年2回の「薫風」において、学校行事やPTA行事の内容や参加した生徒、保護者の声をどんどん掲載していきたい。	
(2) 学習指導 ・家庭学習や個別指導への取組が素晴らしい。今後も継続してほしい。 ・学習時間の増加よりも、いかに集中して取り組み、理解の向上を図ることが大切ではないかと。 ・皆勤率の低下が危惧される。学校の取組を積極的に発信し、家庭との連携が大事である。 ・コロナ禍で活用したオンライン授業も効果的に活用できる場面があるのではないかと。 ・学習面における数値目標(偏差値、大学進学率)の設定はできないかと。		・家庭学習習慣を身に付けることの重要性を継続して指導し、生徒数が少ないことを生かした教科指導や個別指導を今後も行っていきたい。 ・学習時間習慣が十分に身に付いていない生徒の割合が多く、家庭学習の質と量を意識した指導を教科担当者やホームルーム担任と協力しながら継続的に行っていきたい。 ・学年が進むにつれて進路を意識し始めるとともに、皆勤率が上昇している。学校での学習内容をさらに充実させ、生徒の学校生活を充実したものにし、家庭との連携も密にし、皆勤率の改善に努めていきたい。 ・オンラインを活用した授業については、各教科で研究している。 ・1日平均3時間以上の学習時間を確保できれば、考査においても好影響が出ていることから、家庭学習時間についても学習面の数値目標として今後も取り組んでいきたい。その他の数値目標については、より適切なものがないか今後も検討を続けたい。	
(3) 生徒指導 ・気持ちの良い挨拶ができています。安全・安心な学校生活を送ってほしい。 ・身だしなみに問題があるような生徒は見かけない。		・地域に愛される生徒となるよう挨拶に心掛けさせていきたい。 ・身だしなみに関しても現在非常に落ち着いているが、規則に関しては時代に即したものとなるように改善を図っていきたい。	
(4) 特別活動(生徒会活動、学校行事等) ・全国大会や四国大会等の大きな大会でも成果が見られる。アピールも工夫してほしい。 ・地域の人たちや小学生等と一緒に野外活動をしているのが素晴らしい。 ・様々な活動や自主的な活動ができる学校環境であり、継続してほしい。 ・制限ある中で、学校行事等に積極的に取り組んでいる。		・HP等を工夫したり、地域へのボランティア活動を活発にして地域交流を図っていきたい。 ・生徒数減少に伴い、部活動の精選を図りながら、それぞれの部活動が今まで以上の結果を残せるよう取り組みを強化していきたい。 ・コロナ禍で縮小されてきた活動も徐々に緩和に伴い、従来の活動が可能になりつつあるので、生徒を中心とした活動を更に充実させたい。	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(5) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試以外でも5名の国公立大学5名の合格者があり、取組の成果が感じられる。 ・後悔することないよう進路決定してほしい。そのためには本人の努力も必要。 ・生徒自身が早い段階で進路目標を設定できる環境整備が重要。個に応じた支援にも配慮してほしい。 ・志願者増加につながるよう進学実績を上げることが大切。そのために抜本的な解決策が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の反省を踏まえ、早期に公営塾との連携を深めて、国公立大学の総合型・学校推薦型入試に計画的に対応する。 ・校外外の人材を活用したキャリア教育及び進路指導を企画・実施し、生徒の進路意識の向上や進路相談体制の整備を図る。 ・進学実績の向上に対しては、まず国公立大学及び難関私立大学を目指す生徒を増やすことが先決である。そのため、今年度の進学補習や土曜セミナーの体制を来年度も維持するとともに内容の充実を図り、校外模試等を活用して生徒に高い進学目標を持たせる。
<p>(6) 保健管理・教育相談・特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心の支援をしっかりとしてあげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して行う「悩みの調査」だけでなく、普段の様子や保健室の利用頻度、発言内容などから、体調や心の状態の把握につとめ、悩みを抱えている生徒について担任、養護教諭だけでなく、学校全体で状況を把握して対応できるように努めたい。
<p>(7) 読書指導・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で読書時間を設定しているのは良い。今後も継続してほしい。 ・平均貸出数が伸びている。読書好きな生徒に偏ることなく、読書をする生徒を増やしてほしい（スマホ時代だからこそ読書の価値は高い）。 ・一人一台端末の有効活用、遠隔・合同授業も継続してほしい。 ・情報過多の時代ではあり、適切な情報教育をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度より、電子図書サービスを利用する読書についても、積極的に働きかけをし、読書指導を図りたい。 ・一人一台端末については、継続して有効的な活用について模索していきたい。 ・情報教育については、生徒課やホームルーム担任とも連携し、取り組んでいきたい。
<p>(8) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等でふざけて、多大な迷惑をかけるような人間にはなあってほしくない。 ・差別に対して正しく理解するためにも、学習を継続させることが大切。障害者支援施設等との交流も有効であるので実施してほしい。 ・ホームルーム等で一人ひとりの考えや思いを聞ける機会が設定できていてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる人権侵害について、ホームルーム活動等でも重要な課題として取り扱う方法を考えていきたい。 ・この数年、停滞しがちであった福祉施設との交流の活性化を考えている。その他、異世代の人や外国人との交流等の体験の機会を、多くの生徒にもたせられればと考えている。 ・全ての生徒が本音で自身の考えを述べられるような雰囲気づくりを大切にしたい。同時に、生徒の本音に対して適切に対応できる教職員のスキル向上も図ることも重要である。
<p>(9) 学校魅力推進（全国募集、寮・下宿等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと畜産科の良さや学校の教育活動の成果をアピールし、志願者を増やしてほしい。 ・本校の魅力、特色を生徒や保護者に具体的な意見を求めてみてはどうか。他校との差別化につながるアピール事項が発見できるかもしれない。 ・志願者増加につながるような魅力化の工夫を継続してほしい。 ・公営塾の取組・成果をもっとアピールした方が良いのではないか。 ・地元を愛し、地元にも貢献してくれる人材を育成してほしい。そのためには、街づくりを高校がリードがしてほしい。 ・県外生徒の出身中学にも継続的に志願の呼びかけをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も畜産科の取組や地域に根ざした特別活動等の発信を行い、さらに志願者が増えるようにしていきたい。 ・本年度は、地域みらい留学の活動において、生徒自らが本校の良さを発信する機会が持てた。来年度も引き続き、積極的に本校をアピールしてくれる生徒の発掘に努めたい。また、本校の新しい魅力発信の方法についても模索していきたい。 ・効果的なアピールを行うには、さらなる住居環境（寮・下宿）の整備を行い、それを全国に発信するのが最も良いと思われるが、現状維持の住居環境では、畜産科を有する他の学校に見劣りしてしまう。自治体への働きかけが、今後も重要である。 ・公営塾の取組・成果については、もっと全国募集でもアピールするように努めたい。 ・地元にも貢献する人材の育成は、今後も「総合的な探究の時間」の復興まちづくりワークショップや菜園共創プロジェクト、様々な学校行事の中で、発展的に行っていくようにしたい。 ・県外生徒の出身中学の視点はなかったため、現在活躍中の先輩の様子を伝えつつ、志願者を募る工夫をしてみたい。